

平成9年4月30日現在

種 TANE

世帯数 122戸
人口 490人

種の御管神事

この神事は、年の初めに五穀豊穰を祈り、また竹筒に入った粥（しるかゆとかたかゆとの間ぐらい）の状態です。その年の作物の状況を占う神事です。

神事は1月15日朝6時30分に、宮世話（村民より2年の任期で選ばれ、半数ずつが交代）6人が集まり準備を行います。

供え物は、洗い米、小豆、塩水、スルメ、竹筒7本で本殿内陣の三方の上に置きます。米は、以前は神田で作られていましたが、いまでは宮世話の持ち寄ったものを使います。

竹筒の竹は、しのべ竹と言われる種類のもので、福堂地先の土手で採れます。竹は長さ15センチ、直径2センチぐらいのもので、両端をななめに切って、粥が入りやすくしてあります。竹には鋸で刻み目をつけ、素焼き状の土器にのせます。かまどと玉串は本殿下の階段横に置きます。

午前7時に、宮司を先頭に宮世話は本殿前に向かい、奉告祭を行います。参列者は、普段着で円座にすわり、その前に扇子を置きます。皆がお祓を受けた後、この「御管神事」が行われ、代表が玉串を捧げます。

祭事が終わると、お供え物をさげてカマド（くど）で、お供え物を焚く用意をします。使うカマドは、直径30センチ、高さ26センチの瓦製で、それをブリキで覆った木製の台の上に乗せます。また、カマドの上には、鉄製の釜（直径21センチ、深さ20センチ）を置きます。

準備ができると、釜の中に水を入れ、火をつけます。まきは、森の中の枯れ枝を使います。湯が沸いたところで洗い米（6～7合）と、小豆（8勺～1合）を入れ、ふき上がった頃に7本の竹筒を入れます。炊いているうちに米と小豆が竹筒の中に入っていき、できあがるまでに30分～1時間かかります。

炊き上がった粥はカマドのまま、社務所まで運ばれ、竹筒を釜から上げ、皿に乗せて判定する場所まで運ばれます。

判定は9時頃から行われます。上座に区長、左右に当人、農業委員、評議員、宮世話代表などが座りま

す。宮世話の長が、まな板の上に竹筒を1本ずつのせ、横にした竹筒の上部3分の1ほどを、はくようにして包丁で切り、中が見えるようにして、三方に乗せていきます。三方に7本そろると、評定衆が見て判定をします。

判定の目安は次のとおりです。

- ・米と小豆の混入具合。
- ・中身のつまり具合 - バランスよく詰まっているか、空洞になっていないか。
- ・小豆は「みよさ」（実の十分に熟していないもみ）をあらわすので、小豆は少ないほどよい。

判定が決まると、それを表にして、再び合意を求めます。この判定が決まると評定に加わらなかった宮世話が、分担して竹筒（御管）の表に上・中・下の印を押します。また、炊いた粥は飯茶椀にもって、評定衆と参加者に振舞われます。

その頃になると、氏子の農家の人が参拝し、米を納め御管の表をもらって帰ります。この評定の結果を見て、農家は本年の作付の参考にしますが、とくに「上々」という結果の出た作物は豊作疑いなしと言われています。

またこの御管表は額に納められて、社務所の壁に1年間掲げられます。



白鳥神社拝殿

平成9年4月30日現在



世帯数 179戸
人口 570人

先人の防災および生活に関する 都市計画の発想に学ぶ

記述によれば永禄11年（1568）頃、「佐々木六角氏の観音寺城にありし時その臣、今村民部上林藤十郎、本村に屋敷（現在の政所小今村の台地状の屋敷跡：現畑地）を構え氏となす」とあり、その発祥をいまに伝えています。

大字今では、100年前、村落の大半を消失する大火にみまわれ大きな被害を出すこととなりました。いまもこの出来事は、今天満神社の「鎮火祭」という神事によって語り継がれています。また、近くを愛知川が流れ、たび重なる水害には古くから悩まされ続けてきたことも、現存する集落の形態に大きな影響を及ぼす要因となりました。

それ以前の区の形態については、残された資料等は見つかっていませんが、現存する区の区画に、先人の防災と生活に関する都市計画ともいえる発想が見受けられることは、我々の大きな誇りとなっています。

その特異な区画整理は、区の東西端に南北に配置された2本の外周道、それらを梯子型に結ぶ村中道路とそれに平行していくつかの水路（河川）を配置（地図参照）しています。村中道路に沿って各戸が建ち並び、各戸には敷地の前か、もしくは背後のどちらかに必ず水路（河川）が隣接するように配置されています。かつてはそれぞれの家庭の上水道や生活用水、そして防火用水の供給をも可能にしていたものと考えられます。

現在でも新規に分譲される多くの住宅地はおおよそこのようなスタイルで開発されますが、100年前にすでにこうした都市計画の思想を取り入れた区画整理が、一地方の小地域で行われていた事実には驚きます。

水路配置図



計画的に造られた水路



現在も残る当時の区画整理

平成9年4月30日現在

垣見 KAKIMI

世帯数 147戸
人口 483人

私たちの住んでいる垣見の発祥は古く、古代には神崎郡六郷のうち「垣見庄」として和名抄に記されています。

垣見は、古くは花垣の里と呼ばれ、花に囲まれた美しい集落で、自然環境に恵まれた、湧き水豊かな緑の素晴らしい郷であったと伝えられています。

いまでも、その名残りのとおり、湧き水豊かな清流に恵まれ、そこに絶滅の危機にあるといわれている全国的にも貴重な魚ハリヨがすんでいます。

私たちは、そのハリヨの保護活動とともに住みよい環境づくりをめざし、平成3年(1991)度に「創意と工夫の郷づくり事業」の県、町の助成を得て、湧き水のある川の一部を拡幅し「ハリキンの池」を造り、その保護育成と集落の環境づくりにも努力をしています。

当地域には、古くより条里制がしかれ、一ノ坪、二ノ坪等の呼称が多く残っていました。しかし土地改良総合整備事業によるほ場整備により、条里の遺構がほとんど消えたことはさびしい気がします。時代の変遷に伴い農業をとりまく状況も大変厳しくなり、時代に即応した農業を営むため、平成元年(1989)度から平成5年にかけて大型機械の導入にも適したほ場になりました。

この事業と並行して平成3・4年度で集落営農ビジョンを策定し、整備事業の集落指定を受け、国、県の補助を得て、整備事業に着手しました。もうからなくても損をしない、機械ピンボウの防止をめざして、みんなで知恵を出し合ってがんばろうということで営農組合を結成し、集落営農に取り組んでいます。

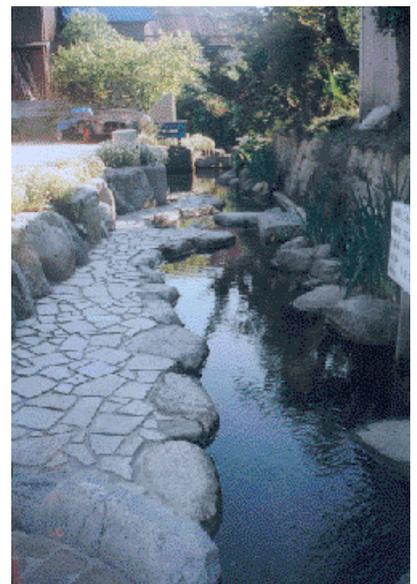
交通面では、明治22年(1889)国鉄東海道線の開通に伴い、能登川駅が大字垣見と大字林の境界線上に設置されました。その当時は蒸気機関車であり、水のきれいなことから、水の充填駅を能登川駅にされたといわれています。また、古くは主要道路として、垣見区内を松街道(朝鮮人街道)が通っており、交通の便利さにも恵まれ発展してきたことは、先人のご苦労のおかげだということを感じながら、この地域を大切にしていきたいと思います。



土地改良総合整備事業ほ場整備竣工記念碑



垣見営農組合格納庫



ハリキンの池

平成9年4月30日現在

本町 HONMACHI

世帯数 315戸
人口 989人

本町の履歴書

- 明治 22 (1889) 東海道線開通に伴い能登川駅設置 (当時民家 4 軒)
- 29 (1896) 近江製油 (奥田製油) 大字林に進出。大水害、大雨が 6 日間も続き、床上・床下浸水で 1 カ月も泥水との生活
- 30 (1897) この頃より駅が存在により商家急増、道路形成される
- 35 (1902) 浜能登川に続き、駅に近い林 18 番地に郵便局開設
- 大正 5 (1916) 氏神恵比須神社建立 (社伝によれば猪子村山上より勧請)
- 6 (1917) 神崎クラブ (公会堂) 落成 (駅前だけでなく広く郡内とくに五個荘の方利用)
- 10 (1921) 駅を中心に日本カタン系・近江蚊帳・江洲商事が進出。工場進出や商業活動成長で能登川駅営業面でも急発展
- 昭和 6 (1931) 太子堂の建立に続き近江上宮会館と改め財団法人に切換え
- 10 (1935) 能登川駅大改装、近代的な構築がなされる



- 14 (1939) 駅前 50 年記念式典開催
- 17 (1942) 能登川町誕生 (五峯村・伊庭村・栗見村・能登川村・八幡村が合併)
- 50 (1975) 新明町 (末広町以東) 本町区に編入
- 53 (1978) 区画整理推進委員会発足
- 59 (1984) 暴力団関連事件発生するも関係者の努力で追放
- 平成 1 (1989) 駅前 100 年記念イベント開催
- 3 (1991) 区画整理事業認可を受け本格的な事業スタート

- 【得意な作物】新鮮卵 (未来にはばたく子どもたち)
- 【特技】会う人を元気にし日々進歩発展 (商の観念をそのまま日常生活に直結)
- 【できるスポーツ】なんでもトライする (現状打破の意欲にもえている)
- 【健康状態】良好なるも加齢による支障、とくに商店街の地盤沈下はさけられない
- 【趣味】「であい」一筋です (出会った人たちに愛)
- 【自慢】どんなときにもくじけない根性！
地域交通の中心地！

ディスカバーすてんしょ

シャイな性格の私 (行政区) は、いままで自己主張するのが苦手でした。今回の履歴書提出をきっかけに、思い切って自分を売り込みたいと思います。まず近隣町内の方々に区画整理が着々実行されている駅前を見直していただき、最良の環境の中、自然体で駅とともにスクスク育まれた「私」の良さを知ってほしいと思います。これからも「すてんしょ」本町区に、より御理解と未長き御昵懇を！



整理された旭町の一区画